

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市農芸高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者（スペシャリスト）を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献する人材を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○農業科目や家庭科目への興味・関心を持ち、将来のスペシャリストとして、その進路実現のために専門的な知識・技能の習得をすすめている。 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めている。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現に向けて、様々な場面において情報共有と意思疎通を図る教職員 ○生徒の無限の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 専門的な知識や技術の習得、進路希望の実現、人格形成</p> <p><保護者> 安全安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立</p> <p><地域住民> 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信</p> <p><地域住民> 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施</p> <p><同窓会> 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成</p> <p><大学等や産業界> 有能な人材育成への期待</p>	<p><保護者> 本校教育活動への理解と協力、特に家庭でのしつけについて</p> <p><地域住民> 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用</p> <p><同窓会> 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓</p> <p><大学等や産業界> 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 県の様々な事業の活用で、専門教育の充実に繋がっている。地域連携を学習活動の向上に活用していくことは、学校教育にとどまらず、地域の活性化という視点からも有効な手法である。今後も本校の特色を活かし、精選された地域連携を発展させていくべきである。 ・ 本校で学んだことが、卒業後にどのように活かされているのかを知り、これからの教育活動を充実させていく必要がある。今後、卒業後の進路を見据えたより高い専門教育の指導が必要である。 ・ 中学卒業生の減少もあるが、本校への入学者選抜の志願者数が減少している。系、学科、コース体制の見直しによる新しい専門高校の魅力作りを検討する必要があるのではないか。 ・ 本校の伝統である何事にも一生懸命、素直に、真面目に取り組むという学校文化を教職員が一丸となって指導・継承していく必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。 ・ 校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。 ・ 農業教育、家庭科教育をすすめる上で、更なる校内施設設備の充実が必要である。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。 ・業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。 ・農業・家庭学科において将来のスペシャリストの育成と地域連携を通して、より実践的な学習活動を展開する。 ・心の教育や部活動を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や特別支援教育充実のための体制作りをすすめる。 ・学校の将来構想・展望の検討をすすめる。 ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。 ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年団および進路指導部・教科と連携し、基礎学力診断テスト、基礎学力テスト、進路模試を実施する。 ○できる限り自習時間を減らすよう授業変更の努力をする。 【成果指標】生徒一人ひとりが納得のいくコース選択 100%を目指し、各学科・コースと連携して説明会を持つ。 【成果指標】検定合格・資格取得者数のべ1,400名を目指す。 【成果指標】成績不振による原級留置者0を目指す。 ○図書館運営の充実を図る。 【成果指標】図書館を活用した授業50時間以上、生徒一人当たりの貸し出し冊数5冊以上を目指す。 	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ○1学年は勤労観を育み自己理解を深めるため、進路講話を4回以上実施する。 ○2学年は、総合的な学習の時間を通して、自己の進路実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、生徒が就職・進学の意思決定ができることを目指す。 ○3学年は、学科と連携し、過去の実績をもとに150社以上の事業所訪問を目指す。生徒の企業見学に積極的に取り組み、企業を理解し応募決定ができるよう努力する。 	(年度末および適宜記載)	◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年と連携して進路希望調査を行うとともに、1回以上の個別面談を行う。 ○進路をテーマとしたLHRや講話を実施し、進路に関する意識向上に努める。 ○進路指導広報紙「あすなろ」を1年3回、2年6回、3年9回以上発行する。 ○インターンシップを実施し、知識・マナーの必要性を自覚させ、学習意欲と適切な勤労観を養う。 ○各教科・コースと連携して「進学補習」と「受験課外」を計画的に実施する。 ○学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者へ早期からの指導と3年校外模試を3回実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3学年は、進路決定に向けて学年と協力し、進路未決定者0を目指す。 ○国公立大・難関私大への進学者10名を目指す。 		<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p>
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な校内美化指導、環境教育 ○担任と生徒指導部の連携強化 ○問題行動の抑止 ○日常の挨拶の徹底、生活マナーの大切さの指導 ○部活動や学校行事への積極的な参加 <p>【活動指標】月例生活点検合格者90%以上、再点検合格者100%を目指す。</p> <p>【成果指標】全教員の100%が生徒に対しての声掛けが出来ると感じることを目指す。</p> <p>【成果指標】全生徒・教職員の80%以上が挨拶は出来ていると感じることを目指す。</p> <p>【成果指標】全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感じることを目指す。</p> <p>【成果指標】学校行事を良かったと感じる生徒が85%以上</p> <p>【活動指標】クラブ加入率70%以上を目指す。</p> <p>【成果指標】環境デー校外作業への参加生徒が全校生徒の70%以上を目指す。</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
農業教育の 充実	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の安全を第一とした実習・実験を行う。 ○各種イベント、出前授業、地域開放的な取り組みを積極的に 行い、地域に根ざした学校づくりを行う。 ○農業関連分野への視野を広げる取り組みとして、インターンシ ップ、ファームステイ等への参加を促す。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資格取得者総数を350名以上、将来の進路に向けた学習意 欲の向上を図る。さらに職業教育顕彰、アグリマイスターの表 彰者を、それぞれ10名以上を目標とする。 ○農業クラブ競技会においては県大会で最優秀を4つ 以上、東海大会では優秀賞を2つ以上、全国大会では優秀賞 4つ以上を目標とする。 ○老朽化した施設設備改修の予算化を図り、学習環境の生徒満 足度 90%以上を目標とする。 	(年度末および適宜記載)	※ ◎
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
家庭科教育 の充実	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞でき るよう指導する。 ○教員が各種講座や研修会へ1回以上参加し、専門知識をより 充実させ、授業に還元する。 ○進学に向けた専門知識の充実を図るために補習授業を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭クラブ員として生活文化科の生徒全員が積極的に活動を 行い、家庭クラブ活動の充実度 90%以上を目指す。 ○専門科目における資格取得をすすめ、さらに上級の資格取得 に取り組む。また、資格取得者数延べ 800 名以上を目指す。 ○地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わり を持ち、参加生徒の満足度 90%以上を目指す。 ○将来の進路希望を固めることのできた者 90%以上を目指す。 ○社会マナーに関する個別指導の機会を一人につき、2年生に 対して 1 回以上、3年生に対して2回以上持つ。 	(年度末および適宜記載)	※ ◎ ※
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育の充実	○生徒・教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識するための取り組みを推進する。 ○校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成し、実施することにより人権教育を推進する。	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
開かれた学校づくりと組織運営の充実	【成果指標】学校説明会・高校生活入門講座、農芸祭等への参加者の満足度90%以上を目指す。 ○PTA 理事会を充実させ、PTA行事の改善を図る。	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報提供による信頼の定着	○HPの効果的な運用方法を検討し、最新の情報を発信し、年間閲覧数 30,000 件を目指す。 ○電子掲示板を活用し、情報提供に努め、毎日運用するとともに、月1回以上の更新を行う。 ○文書及びHP、絆ネットによりPTA行事や保護者公開の学校行事等の紹介に努め、教職員との共通理解・連携を進める。	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
危機管理体制の充実と生徒・教職員の安全安心を守る取組	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理マニュアルにより、危機管理に関わる訓練を実施し、いざというときに備えられる組織運営を目指す。 ○生徒の各種検診の実施の徹底、生徒向け保健だよりの発行 ○AED 講習会、性教育講座、薬物乱用防止講座、献血セミナーを実施する。 	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育相談・特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○担任をはじめ各学年、各分掌との情報の共有を密にし、迅速な対応がとれるよう連携していく。必要に応じて、スクールカウンセラー・発達障がい支援員につなげ、支援体制を構築していく。教職員研修を2回実施する。 	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の委員会に位置づけて組織的に取り組む。 ○環境マネジメントシステムにおける本年度の実施計画を策定し、全職員で共有する。 ○「環境教育で育てたい生徒の力」を共有し、日常の教育活動の中で環境教育を実践する。 ○6月に環境週間、10～11月に環境月間を設定し、期間中に、全教職員が各々の授業の中で環境教育を実践する。 ○全職員協力のもと、ISO14001 再認証審査を受け、環境マネジメントシステムを維持する。 ○地域とのコミュニケーション活動の推進 	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい環境づくり	○総勤務時間の縮減に向けて、年次休暇を取得しやすい環境をつくる。	(年度末および適宜記載)	
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)